

ワクモ対策のポイント

ワクモは 10 年ほど前から養鶏産業界に悪影響を及ぼす外部寄生虫の筆頭で、被害は増加する傾向にあります。

鶏への吸血による貧血・嗜眠状態や死亡、産卵率の低下、汚卵の発生、感染症の誘引の他、ヒトへの付着・吸血など様々な被害を引き起こします。ワクモの活動が活発で増殖も盛んになるこの時期に今一度対策を考えてみましょう。



飽血時の成ダニ（出典：卵用鶏ワクモ対策マニュアル）→

1. 侵入防止

一度鶏舎に定着すると、完全に駆除することは極めて困難です。

野鳥・ねずみ等の対策、器具機材（運搬カゴ、卵トレー等）や衣服の洗浄・消毒を徹底し、ワクモの侵入を防止しましょう。

2. 鶏舎清掃・洗浄

ワクモは屋間、ケージや餌樋等の隙間や陰、鶏糞中に集塊を作り生息します。

定期的な清掃を実施し、アウト後はホコリや鶏糞の除去を徹底しましょう。

洗浄はワクモが生息しやすい場所を中心に徹底的に実施してください。

ワクモは 65℃以上の高温水に漬けることで瞬時に死亡するので、高温高圧洗浄機も効果的です。

3. 薬剤散布

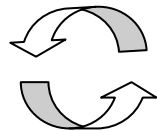
殺虫剤は用法・用量を守り、ワクモの生息しやすい場所に重点的に散布してください。虫卵には殺虫剤が効きません。1週間程度の間隔をあけて2～3回以上散布しましょう。

ワクモの空腹時は殺虫剤への抵抗性が劣るため、導入前の散布は効果が期待できます。

例) オールアウト→洗浄/消毒/薬剤散布→乾燥→**薬剤散布**→鶏導入



ケージ・餌樋のつなぎ目、卵受け、集卵ベルト、ラバー内側 など



鶏体に移動し、吸血
(屋間見られる場合も)

散布上の注意

○薬剤耐性ダニの出現が危惧されるため、同一系統の薬剤を連続使用するのは避け、複数の薬剤を交互に使用するなど工夫してください。

〈主な殺虫剤〉有機リン系製剤、カーバメイト系製剤、ピレスロイド系製剤

○鶏舎内に鶏がいる時に薬剤を使用する場合は、卵や飼料に薬剤がかからないよう、集卵後及び給餌前に散布してください。